

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月22日

## 【評価実施概要】

事業所番号			
法人名	社会福祉法人 萱垣会		
事業所名	赤石寮グループホームやすらぎの郷		
所在地	長野県下伊那郡阿南町新野28番地の1 (電話) 0260-24-2371		
評価機関名	特定非営利活動法人 長野県高齢者福祉協会		
所在地	長野市南長野南県町1001番地3 陽光丸ビル4階		
訪問調査日	平成20年11月22日	評価確定日	平成21年1月14日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	人
職員数	8人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算7.

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての ~ 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	833 円	

## (4) 利用者の概要( 11月 1日現在 )

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	3	要介護2	3			
要介護3	2	要介護4	1			
要介護5	要支援2					
年齢	平均	88歳	最低	78歳	最高	96歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	新野診療所
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居者一人一人が、生活の中で役割を持ってその人らしく暮らしている。又、少し前までこの家にもあった“薪の風呂”が近代的な風呂と併設されていて、このことも“生活”を感じさせる。更に、日中は、玄関をはじめ、どこも施錠していない自由と開放的な施設である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 施設内で行われている全職員が参加する会議へ報告し、改善をしている。「利用者及び利用者代理人の権利」については、平成19年4月1日付けで作成され、入居者及びその家族等に説明し、同意を得ている。又、職員のそれぞれの段階に応じ、外部研修が行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  外部評価の意義がよくわかり、自己評価を利用者への接遇改善の機会としてつかみ、サービス向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)  家族代表、ボランティア代表、老人クラブ代表、民生委員、阿南町民生課、介護支援専門員、管理者、主任で構成している運営推進会議は、構成委員の出席日程調整がうまくいかないため、なかなか定期的な開催が出来ていない。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)  入居者の家族会開催時が一番意見の出しやすい機会と捉え、この会議で意見や要望を出しやすい様、工夫した企画を考え実施している。ここから出てきた要望等をケアプラン等に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  施設開設以来、地域との連携を大切にしている。特徴的には、入居者の作品が地元の中学校の文化祭で展示されている。又、保育園児との交流が盛んで、施設にはその様子が写真で展示されている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の掲げる「一隅を照らす」という理念の下に施設独自の目標を毎年作っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年間の事業計画には、理念に基づく目標が掲げられ、職員の見る事が出来る事務室へ掲示されている。更に年間の事業目標を達成するため、職員一人一人の月間目標を立て、毎月の職員会議で検討する努力が始められている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学校の文化祭には、入居者の作品が展示されている。保育園とは、入居者と園児が行った「買い物ごっこ」が契機となり益々交流が盛んになっている。中学生や高校生とのグループ交流や、地域のボランティアの訪問も多くなり地域との付き合いが盛んに行われている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を運営を見直す機会としており、指摘事項は、職員会で報告し改善に向け努力している。		

赤石寮グループホームやすらぎの郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、阿南町民生課、民生委員、老人クラブ代表、ボランティア代表、家族代表、介護支援専門員、施設の管理者、主任で構成しているが定期開催が難しくあまり出来ていない。</p>		<p>推進会議が2ヶ月に1度定期的開催され入居者の様子、外部評価への取り組み状況や指摘事項の報告等されることが望ましい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>現在は、施設の運営等につき特に町に対して協力を要請することがないため、担当者との行き来する機会はない。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月家族へのおたよりを発送しており、施設での入居者の暮らしぶりが報告されている。金銭出納帳が一人一人にあり、このコピーが年3回家族に送られている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が施設へ意見や苦情をいう機会は主に家族会開催時にあり、家族会の内容を工夫して意見を出しやすくしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職した職員の補充以外に異動はない。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修情報を職員が見る機会があり、自主的に研修を希望すれば行く機会は保障されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯伊にある14のグループホームによる3ヶ月に一度の“つどい”を平成19年1月より行い、研修や交流、お互いの悩み等を話し合っている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者がサービスを開始する際、家族の事前見学を通じ、本人の不安がない様に施設の情報伝えている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から得意な料理を教えてもらったり正月飾りの作り方を教えてもらうなど、共に支えあいながら生活している姿がうかがえる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	職員は、入居者一人一人の思いを聞き、意思表示の出来ない人へは、その人らしい暮らし方を日々検討している。毎月立てられる一人一人のケアプランにはそれが反映されている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	入居者一人一人のケアについては、日々の業務日誌をもとに毎月職員会議の中で検討され、その上で介護計画がつけられている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	多くの入居者の状態変化が現在のところあまり見られないため、介護計画の見直しをするケースはあまりないが変化のあったときには見直しがされている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	かかりつけ医に受診したり、入居者の希望で外出したい時など職員と家族が協力し合い入居者の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診については、入居者や家族の希望を第一に考え、かかりつけ医への受診を行っている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>これまでは、入居時や早い段階で、終末期に向けた家族等との話し合いはされてこなかったが実際に終末期ケアを3人行った実績がある。</p>		<p>グループホーム独自の指針を作り、今後早い段階から、終末期に向けた話し合いが行われる事を期待する。</p>
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1.その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>トイレ誘導の際、他の入居者にトイレに行くことがわからない様、他の言葉で誘導する等プライバシーについては職員間で気を使っている。また、居室の中が、ドア開閉の際見えない様、カーテンやのれんを吊るして工夫している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事の時間は決まっているが、食べたくない時には後で食べるなど、一人一人の希望にそった支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に献立はなく、その日に食べたいものを皆で決め、入居者が食材を買うところから始まる。職員も入居者も役割を分担して食事作りしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているものの、それにこだわることなく入浴を行っている。風呂は薪で焚くものと温水器のものがあり、入居者の選択による。また、冬場は、一人ずつ近くの温泉に行き、入居者の楽しみの一つになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事準備で箸を配る人、目玉焼きを焼く人、神棚に毎日お供え物をする人、ミシンを使って縫い物をする人等、一人一人にその人の能力に応じた役割があり、生き生きと生活している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食事の食材を近くの店に毎日何人かで買い物に出かけたり、隣接する赤石寮までゴミだしをしながら挨拶をしたり、時には行きたい所へドライブに出かけたり日常的に外出する機会がたいへん多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は職員が一人になってしまうため夜8時から朝5時までは玄関に鍵をかけているがそれ以外の時間は居室を含め施設全体に施錠はしていない。		

赤石寮グループホームやすらぎの郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>施設独自の防災訓練は行っていないが、隣接する赤石寮（特養）と一緒に年2回の防災訓練は行っている。</p>		<p>日頃から地域の方の協力を得られるような施設独自の防災訓練を行うことが望ましい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養のバランスや水分摂取は、何よりもおいしい食事を食べることにあるという考え方を基本にして取り組んでいる。起床時の水分摂取にも努めている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂には季節の花や“ほうづき”が飾られ、全体的に大変明るい。また、皆が集まる居間には神棚があり、入居者の手によって毎朝供え物がされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には清潔感があり、入居者自身が作った刺繍や、お気に入りの写真等が飾られ、居室の入り口には一人一人好みの“のれん”が掛けられている。</p>		

 は、重点項目。